

教職課程センターだより 第8号

発行日 2012年11月29日

巻頭言 「教育の質の向上」

教職課程センター長 磯部 作

先日、田中 文部科学大臣が3大学の大学設置認可を拒んだことが重大な問題になりました。批判を受けて一週間程度で許可しましたが、関係する受験生などを大変な不安に陥れました。

大臣は、大学が多すぎるので「教育の質の向上」のために大学を減らすと言いました。しかし、「教員の質の向上」は、単純に大学数を減らすことで遂げられるものではありません。科学技術が高度に発達し、社会が複雑になってきている現在、多くの人々が大学教育を受け、高度な理解力や思考力、豊かな知性を身に付けていくことが必要です。行政は大学で充実した教育を受けることができるようにすることこそが重要であり、「教育の質の向上」を言うのであれば、教育予算を増やして、マスプロ教育を解消するなど、教育条件を整えるべきです。日本の大学進学率は約5割ですが、オーストラリアの約9割をはじめ韓国などかなり多くの国が日本を上回っています。少子化が進行する中でも進学率の向上は考えられます。

日本では、高校進学率が1970年代半ばに9割を超えました。しかし、学級規模は以前の50人から40人になってきたものの、まだ30人程度にはなっていません。このため、多くの生徒に教育内容を理解させるために教師は多大な努力をしています。小中高でも「教育の質の向上」のためには、やはり教育条件の整備が求められています。

本学では、2003年度に教職課程センターを設置し、教職希望の学生が教師としての力量を身に付けることができるよう努めてきました。まだ不十分な点はあるものの、近年では教員採用試験の合格者も増加しています。今後は、更に教育条件を整備するため、特別支援や各教科の少人数教育の実現などを課題としてとらえています。

それとともに、「教育の質の向上」のためには、大学の教育研究を充実させるとともに、教師希望の学生が学習研究意欲を持って、教育内容の理解や教育方法の習得に努力していくことが大切です。教育



は、学ぶ主体である生徒・学生と、指導・支援する教師が一体となってなされるものです。そのなかで教師もまた学び成長していきます。多くの人々が理解力や思考力、知性を身に付けていくことができる教育・教師を目指して共に努力をしていきましょう。



高校での教育実習を通して

社会福祉学部 社会福祉学科4年 梅田 由香里

3週間の教育実習を通してたくさんのことを学びました。たとえばSTにおいて生徒に連絡事項を伝えるにしても、その順番次第でわかりやすくもわかりにくくもなるということ、授業の構成もそれと同様に生徒が一番理解しやすい順番で進めるべきであること、黒板の使い方やレジュメの作り方にも工夫や細かい配慮が必要であることなどです。これらの学びを通して人に何かを伝えることの難しさを改めて実感させられたと同時に、よりよい教員になるためのスキルを1つ身に付けることができた気がしました。



この他に私にはこの3週間の中でもっとも心に残っている学びがあります。それは授業も生徒との関わりも一生懸命であることがいかに大切かということです。私がこのことを強く実感したのは研究授業のときでした。正直、私の授業は少しの面白さもないものでした。自分だったらきっと寝てしまうだろうと思うくらい……。それにもかかわらず研究授業をしたクラスの生徒たちは65分間の授業を最後までしっかり聞いてくれました。彼らの視線に緊張もしましたが、ほんとうにうれしかったです。

研究授業のあと、このことを先生に話したところ、「生徒たちに助けられたのも事実だけど、君の頑張りが生徒に伝わったのだろう。」という言葉いただきました。このとき生徒たちが私を助けてくれたのも、掃除や部活動など普段から彼らと関わりを持つことに一生懸命になったことが良い影響を与えてくれたのだらうと思いました。また、私にそれができていたとは言えませんが、生徒と信頼関係を築くことがどれほど大切であるかも考えさせられました。

もちろん生徒にとってわかりやすく興味をもてる授業をする事はとても大切です。しかしどんなにへたくそな授業であっても、こちらが一生懸命であれば、その一生懸命さは生徒に伝わると思います。

3週間ってとても長いと思うかも知れませんが、意外とあっという間に過ぎてしまいます。その短い期間の中で授業にも生徒とのかかわりにも全力で向かっていくことでより充実した学びを得ることができるのではないかと私は感じました。



教育実習を終えて

子ども発達学部 初等教育専修4年 川井 啓代

1ヶ月の小学校実習を行って、教師の仕事、授業の進め方などさまざまなことを学んだ。その中でも、児童との関わり方は実習を行った中で一番の学びであり、その後に変化のあったことだと思う。自分では、実習初日から児童に近づき、より近くで観察したり、関わったりしているつもりだった。しかし指導教員に言われて、自分が一歩引いて児童と関わっているということに初めて気が付いた。自分ではできているつもりだったから、指導教員に言われなければ気が付かずに実習を終えていただろう。その後は、自分の中で「児童とより深く関わる」ということを目標にした。目標があったからこそ、大変だったけれど充実した4週間を過ごすことができたのだと思う。そして、この目標を特別支援学校での実習でも生かすことができたと思う。

また、特別支援学級で実習をさせていただいたことで、1日だけの実習だったが、授業の仕方や給食の配膳など、今まで知らなかったことを知ることができた。そして、自分の将来についてを明確に考えることもできた。児童に個別で学習を教えているときのことである。勉強が嫌でなかなか取り組まなかった児童が、学習の仕方を変えることでどんどん問題を解いていく姿を見て、教師が少し働きかけを変えることで、児童にも変化があるのだということが分かり、困ったり悩んだりしている児童と関わっていききたいと思うようになった。今回は特別支援学級のほんの一部しか見ることができなかったが、自分が将来どうしたいのか、どのように児童と関わっていききたいのかを実習を通して改めて見直すことができた。

教員採用試験で日福大生、大健闘！

－ 2013年度教員採用試験（2012年実施）の結果について －

今年度の教員採用試験の合格者（延べ人数）は、現役生17名、卒業生24名の計41名となりました。41名という数は最近10年間の最高数です。現役生は昨年をやや上回り、初等専修7名、中高10名という内訳です。卒業生は、2006年度卒2名、2008年度卒5名、2009年度卒3名、2010年度卒5名、2011年度卒9名という内訳です。卒業生の健闘ぶりが光ります！ 自治体別にみると、愛知県14名、名古屋市4名、静岡県4名、岐阜県4名、神奈川県3名（相模原市を含む）、長野県2名、富山県、石川県、和歌山県、岡山県など全国14の自治体に合格しました。

今年度の教員採用試験の特徴は、第一に、卒業生の合格者数が多かったことが挙げられます。第二に、岐阜県や富山・石川県などこれまで難関と言われた県に合格者がでたことです。岐阜県では、現役生が難関を突破して高校福祉科で合格しました。第三には、卒業生の合格校種をみると、卒業後に小学校免許を取得し、特別支援（小）で挑戦・合格した人たちが目につきます。高倍率・難関な中学社会を基礎免許として受験するよりも、遠回りに見えて案外近道なのかもしれません。また、特別支援教員をめざす人で社会科が苦手な人には、教科専門の社会科を避けて、特別支援を専門として受験できる自治体（神奈川県・名古屋市など）があります。この方法は大学での学びを生かして受験できること、受験勉強が効率的にできるなどの利点があります。社会科が苦手な人にはお勧めの道です。

最後に、推薦試験は、昨年度同様の厳しい結果となりました。昨年度も言ったことですが、推薦を受けることができる学生は一般試験で合格できる学力・資質を十分に備えている人たちです。一般試験に正面から向き合い挑戦する姿勢を持って欲しいと思います。

いま、教育現場は大量退職期をむかえ、自治体の教員採用数も増加する傾向にあります。ここ3年間がチャンスです。今回、力及ばず不合格になった人には、失敗に挫けず、試験結果を分析して自分の足らなかった部分を補うように努めてください。失敗から学ぶことです。また、卒業後は勉強の時間が確保できません。今が教員採用試験にむけ、ゆとりを持って勉強できる時期です。早めに態勢を立て直して、もう一度頑張ってみてください。先輩たちの実績が示すように、努力は必ず報われます。

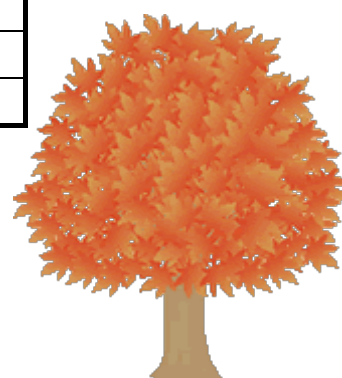
（文責：高須）

<教員採用試験合格状況>

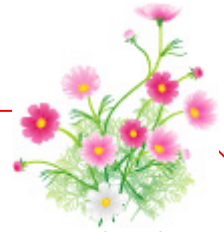
卒業年度	課程登録者数	1次合格者数	2次合格者数	既卒者合格数
2012	128	14	10☆	19☆
2011	138	13	7☆	8
2010	87	6	2	3
2009	94	13	9	14
2008	108	20	11	13
2007	132	12	7	5
2006	95	4	2	6

教職課程事務室作成

注：☆は補欠合格1名を含む



教員採用試験合格体験記



社会福祉学部 社会福祉学科4年 大海 晴海

私は、岐阜県の教員採用試験を受験しました。本格的に勉強を始めたのは3年生の3月頃です。すでに勉強を始めている友人達の姿を見て焦る気持ちはありましたが、なかなか勉強を始めることができずにいました。3月に入りこのままでは教師になれないと気づき、ようやく勉強を始めました。限られた時間の中で私はまず過去問を解き、傾向をつかみました。受験する県によって傾向が違いますので、過去問を解き傾向をつかんでおくと思いいます。さらに過去問だけではなく問題集を購入し、何度も繰り返し問題を解きながら知識を定着させていきました。また図書館にある『教職課程』という雑誌に載っている問題を解いたり、とにかくたくさん問題をこなしました。問題集は自分に合ったものを購入し、何度も繰り返し問題を解くと良いと思います。

面接の対策は自主的に教職の仲間が集まり、練習をしました。皆の意見を聞き自分も考えていることを発表することでなぜ教師になりたいのか、目指す教師像等が明確になりました。面接ノートも作り自分の考えや思いを箇条書きにして書きだし、自分が語りたいことを明確化していきました。仲間と練習したことで本番は緊張せず話すことができました。

みなさんに伝えたいことは、人との出会いや経験を大切にしたいということです。サークルやボランティア、教育実習などのすべての経験やそこでの出会いが自分を成長させてくれます。その経験が小論文や面接で語れるものとなると思います。さらに教師になったときに生徒に語れる財産となるのではないかと思います。また、勉強ばかりではなく時には友人と遊びに行ったりと息抜きをしながら自分のペースで勉強を進め、夢を実現させてほしいです。




子ども発達学部 心理臨床学科4年 山口 真由子

「真由子は挑戦することから始めよう。」3年生の時に高須先生からお言葉をいただきました。先生になりたい、でも何をしたらいいかわからない…葛藤の中で始まった私の挑戦。

私が受けた静岡県は、一次試験に教職・一般教養、そして一番の難関、社会科の専門試験がありました。教職教養は3年生の冬には一通り覚えましたが、私は全くと言って良いほど社会科の知識がなく、教友ゼミの内容にもついていけず、基礎の基礎からのスタートでした。中学生向けの問題集を5回程繰り返し解き、基礎が定着してきた頃に、静岡県の過去問を見てみるも一問目からわからない…。次は、静岡県の傾向を掴んで再度勉強！静岡県は筆記試験だったため、文章で答える練習も重ねました。また、私は4年生の春から小学校にボランティアへ行き始めました。子どもたちの笑顔や涙に出会い、「私は先生になるんだ」という思いが強まりました。問題集と向き合うことも大切ですが、子どもたちと向き合う時間がある方が良い刺激になると思います！また、試験対策では面接練習も大きくなっていく為、勉強の合間に人と関わる時間も必要だと思っています。実際の面接は、いかに良く答えるかよりも、どれだけ面接官と笑顔でコミュニケーションがとれるかが重要であるように感じました。

無事に採用試験に合格した今も、まだ夢みたいです。振り返ると、家族、一緒に頑張ってきた友人、教職の先生方の熱心な指導、先輩からの応援、出会った子どもたち…すべて私の力となっています。心から感謝しています。

皆さんも体に気をつけて目標をもって取り組んでください。応援しています！



おめでとう!

社会福祉学部 社会福祉学科4年 久保高 千恵

みなさんこんにちは。私は社会福祉学部4年の久保高千恵です。私も教員になることを目指してきた者の一人として、少しでも皆さんのお力になればと思います。私は全国の受験動向を調べることから始め、試験日の重ならない大阪府・愛知県・神奈川県 の3県の教員採用試験を受験し、愛知県と神奈川県に合格することができました。自治体によって試験の傾向や、受験区分、採用人数が異なりますので自分のカラーにあった都道府県を受験することも、ポイントの一つではないかと思っています。

私が教員採用試験に臨むまでに、大切にしてきたことをご紹介します。1つめは、共に学び共に教員を目指す仲間をつくることです。私自身受験を意識して始動しだと様々な壁にぶち当たりました。そんな中、教職を語りあい悩みあった仲間と共に励ましあい頑張りあえたことは、私の一番の原動力になったと思っています。

2つめは、学びの機会となり得るものは積極的に参加し自分のものにしていくということです。私は教友ゼミでの学びあいやフィールドワーク、地域の学校での学習補助のボランティア活動に積極的に関わらせてもらい、座学で得られることだけではなく自身の経験を通してそのことを直接的な、かつ自分だけのオリジナルな学びに繋げていくことができました。

3つめは、人によって様々な勉強方法がありますが、教員採用試験対策を通して自分自身を改めて知り、出会いなおすという作業を繰り返してほしいということです。私が受験を振り返って一番大切だと感じたことは、“なぜ教員になりたいのか” “どんな教員になりたいのか”を自分の気持ち・自分の言葉で伝えることでした。この思いを相手に伝えるために、自分史やこれまでの自分にまつわるエピソードを総整理しノートに書き出す作業に力を入れて取り組みました。

最後に、大学の仲間・先輩方・先生方を通じて得ることのできる繋がりは、自分の財産になります。そして一生懸命コツコツと積み重ねてきたことは必ず実になります!! あせらず、自分らしく!!! 皆さんのご健闘をお祈りしています。





卒業生からの近況報告

特別支援学校教諭 原 司紗

(2011年3月社会福祉学部社会福祉学科卒業)

私は知的養護学校で高等部 1年生の学級担任をしています。担任するクラスは、自閉症児5名、ダウン症児2名で構成されています。

日々の中で大切にしていることは子どもをよく見て、耳を傾けながら気持ちを受け止めることです。私のクラスでは、コミュニケーションや感情のコントロール面で課題のある子どもが多いのですが、時間を持って向き合い、寄り添うことで互いの信頼関係を築くように心がけてきました。互いに信頼関係ができることで、子どもたちは、指導や注意にも素直に応じる姿勢ができ、安心して楽しく学校に通うことができているように感じます。同時に子どもたちをよく観察することがアセスメントや適切な支援方法を実践する上で必須です。

また、養護学校で働き始めて、特別支援教育の専門性の大切さを実感しています。支援方法一つで子どもたちは大きく変化します。先輩の教師の方々の支援方法を真似てみたり研修に出かけたりします。教師になったら終わりではなくそこからがスタートです。自分をしっかりと持ち、目標を明確にして、専門性を高めようと意識しなければ日々の忙しさの中であっという間に時間だけが経過してしまいます。私は、本年度先輩の教師の方から紹介していただいた「たすく」の研修や文献で実践や支援方法を学んでいます。「たすく」は自閉症教育の7つのキーポイントを基に発達障害のある人への一貫性と継続性のある支援を目指しています。アセスメントやプログラムの具体的な提示がされているので大学生の方でも取りかかりやすいように思います。在学中にこういった現場で使える支援・指導方法を学んだり、近隣の養護学校にボランティアに行ったりすることは有意義であると考えます。教師になるとすぐにクラスの各教科の授業を一人で任されるからです。

教師という仕事は、難しさや責任のある仕事ですが、やりがいのある楽しい仕事でもあります。心が折れそうな時でも教室で子どもたちの変わらない笑顔に出迎えられると今日も頑張ろうと思える素敵な仕事です。後輩の皆さんと一緒に働ける日が来ることを願っています。頑張ってください。



特別支援学校教諭 伊藤 亜沙香

(2011年3月社会福祉学部社会福祉学科卒業)

こんにちは。私は知的障害養護学校の高等部 1年生の担任をしています。日常生活や職業生活の基礎の育成を必要とする知的障害、自閉症、てんかんのある生徒達のいるクラスで共に生活をしています。

知的障害の養護学校で働き初めて一番思う事は、思っていた以上に生徒達が本当にかわいく、とても素直だという事です。初めは高等部という事で、自分とあまり年齢の変わらない体の大きい生徒達と接する事に不安がありました。しかし、関わっていく中で、何事に対しても一生懸命に頑張り、素直に行動する子達である事が分かり、関わる事がどんどん楽しくなっていきました。そんな生徒達と過ごす日々は、一日として同じ内容の日はなく、喜んだり落ち込んだり、とても充実しています。今年度は、初めての担任という事でハプニングや失敗、担任業務の量の多さに嫌になる事が何度もありましたが、朝の生徒達の「おはようございます。」という元気な挨拶を聞くだけで頑張ろうという気持ちになる事ができました。生徒達のパワーはすごいですよ！

私が生徒達と接する中で特に意識している事が2つあります。一つは、何事もまず生徒と一緒にやってみるという事です。言葉で説明するより、実際に教師が行動で示した方が生徒達にとって分かりやすいですし、生徒達側の思いも知る事ができます。挨拶を大きな声でして欲しい時は、まず教師が大きな声で挨拶をする。思いっきり楽しんで欲しい時は、教師が一番楽しむ。当たり前のような事ですが、とても大切な事であるなど日々感じています。二つめは、生徒達が卒業後にそれぞれの充実した自立生活を送る為には、どんな力をつければいいのかを考えながら生徒の様子を日々観察する事です。生徒達は本当に個性的です。家庭の状況も一人一人違ってきます。実態、特性を理解した上で課題を見つけ、指導の手だてを考えて、一人一人の自立を促す指導を行っていく事ができるよう心掛けています。

私が、これから採用試験を受ける皆さんに伝えたい事は、まず今の大学生活を十分に楽しんでくださいという事です。自分の好きな事に好きなだけ打ち込めるのは今その時だけです。そこでの活動が、案外、教育の場で役にたったりします。また、色々な人と関わりコミュニケーション能力を身に付ける事も教師になってから必ず役に立つと思います。そして、気が重いのと思いますが勉強ももちろんしなければいけません…楽しむときは楽しむ、頑張る時は頑張る事が大切です。時間を上手に使って、メリハリをつけて、くじけずに頑張ってください！皆さんと一緒に働く事ができることを楽しみにしています。